

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	16	実施計画番号	91
事務事業名	防犯灯設置及び街路灯電気料等助成		
個別事業名		事業開始年度	-
担当課名	生活環境課	事務の種類	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	夜間の道路、通路は暗く、犯罪や交通事故に遭う危険があるため、照明器具を設置する。		
事務事業の目的	犯罪や事故のない明るいまちづくりを進める。		
実施状況	防犯灯7基を設置、街路灯45基の設置費の2分の1補助、及び街路灯電気料の40.6%(9,106千円)の補助を実施した。		

【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	55	55	55
	人件費(千円)	3,960	3,960	3,960
正職員以外	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	29	29	29
臨時職員	人件費(千円)	267	267	267

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	22年度実績	23年度実績	24年度計画
	9,982	10,101	11,400
うち一般財源	9,982	10,101	11,400
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	防犯灯設置数				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
		灯数	13	7	4	
	活動指標名②	街路灯補助金額				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画	
		千円	9,236	10,101	11,400	
成果指標	成果指標名①	防犯灯設置数				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		灯数	目標値	13	7	4
			実績値	13	7	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名②	犯罪件数(前年度以下を目標とする)				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		件	目標値			
			実績値	593	473	
達成度(%)						

十和田市事務事業評価シート

整理No	16
計画No	91

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地	0 / 4
	②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		夜間の道路照明は、防犯対策として妥当である。	
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地	0 / 6
	④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		防犯灯設置及び街路灯の設置、維持費の補助は、事業の安定した継続に有効である。	
	⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地	0 / 6
	⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		町内会要望の取りまとめ、現地調査、実施箇所の決定、工事依頼、これらの補助金事務の手順が明確であり、無駄のない作業となっている。	
	⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	B	1	2	受益者負担適正化の余地	2 / 4
	⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		設置箇所は、暗さ、犯罪抑止力、公共性等の観点から、総合評価により決定している。 協働のまちづくりの観点から、補助率が適切か検討の余地がある。	
					現在の適性	18 / 20	改善の余地	2 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

⇒

公平性を改善して継続

方向性の理由

現状では、町内会等の要望に合わせ、可能な限り設置している。また、補助により、町内会で街路灯維持が行われている。設置場所の公平性の検証方法と、現行の補助率で、町内会が街路灯維持を継続するために十分な効果を得ているか、検討する必要がある。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

町内会等の要望を数多く収集し、未設置地区解消に向け、今後も事業継続し、犯罪の抑止を図る。